

コミュニケーション能力を育てるために

保護者会総会でもお話したことですが、大切な内容ですので、改めてお伝えしたいと思います。長年、小学校で勤務する中で実感したことです。子どもたちの小学校での様子を見てみると、些細なことから友達とトラブルになる子どもの存在が気になりました。自分の感じていることをうまく表現できないことからつつい手が出てしまう、言いたいことが言えなくて、言葉で伝えられないもどかしさで上手く友達とつきあえない。そんな状況でトラブルに発展しているケースも少なくありません。その解決策として小さい頃からコミュニケーション能力を育てる関わりが大切になってきます。家庭でも取り組んでいただきたいことは、次の6点です。

① 家族間で挨拶をする

普段から家族で「おはよう」や「行ってきます」などの挨拶を交わすことも大切なコミュニケーションのひとつです。

② 子どもの話を聞く<話の聞き方のポイント>

ア 最後まで子どもの話を聞く(途中で話を折らないようにする)

イ 頷きながら話を聞く(相槌をうつ)

ウ 「どうなったの」といった具合に、話の途中で子どもに問いかけてみる。子どもは話をするということ、自分の考えをどう伝えれば相手に分かりやすいかを頭で整理し、言葉や表現方法を工夫するという方法を学んでいきます。

③ 子どもの気持ちに共感する

嫌だった・嬉しかったといった自分の気持ちを誰かに受け止めてもらった経験が多いと、相手の気持ちに共感する心が育まれやすい。

④ 対立したら相手の気持ちも考えるように助言する

相手の立場になって考えてみると自然と解決に向かうこともあります。

⑤ 一言で答えられない質問をする<子どもが何かが好きだと話し始めたら>

ア なぜ好きなのかを子どもに問いかけてみる。

イ 問いかけることで、子どもは好きである理由をいろいろと考え始める。

ウ 「色が好きだから」「甘いから」などたくさんの理由を考えることで、表現方法の幅が広がり、コミュニケーション能力の発達にも役立つ。

⑥ たくさんの人と接して話をする

いろいろな場所でさまざまなことを学びます。コミュニケーション能力は、たくさんの人(家族・地域の人等)と触れ合うことで育つでしょう。

このような関わり方の積み重ねで少しずつコミュニケーション能力が育っていくといわれています。もちろん、家庭だけでなく、園の保育者もそのような関わり方を心掛けていく必要があります。

明日からゴールデンウィークが始まります。交通事故防止や感染症予防に留意していただき、楽しい休日になりますようお願いいたします。

心の器(精神的年齢)

人との関わりによって、容量の大きな丈夫な「心の器」を作る

子どもが、キレたり、暴れたりする時、言葉でたしなめても効果はない。



幼児期に人との関わり方を通して、心の器を丈夫にすることが大事

※ 水があふれたり、器が壊れたりする状態とは、「キレる」「自分を傷つける」「引きこもる」、そんな状態になることです。

「心の器」とは、精神的年齢のことで、外からの刺激への対応力を示します。

外からのストレスがいくら入ってこようと、容量の大きな丈夫な器は、壊れたり、溢れたりしません。

丈夫な「心の器」を作るためには、幼い頃からの人との関わりが重要になってきます。

お子様のコミュニケーション能力を高めるためにも、上記の6点を大切にしてください。

仏教は、心を常に正しくしていくことを大切な歩みとします。日常生活の基盤として規範づけているのが生活信条です。生活信条をさらに12のねらいに細分化されたものが「保育主題」です。

東俣幼稚園は、仏様の幼稚園です。教師と子どもが浄土真宗のみ教えの中に、共に育てられていくことを目指しています。園長便り「わくわく東俣っ子」では「保育主題」も定期的に取り上げていきます。

【保育信条：尊いみ教えを聞いて ほとけの子を育てます】

5月の主題

讃嘆(さんだん)=たたえます

体ものびれば心ものびる。心は「深まる」と言うべきでしょうか。

「たたえる」とは、素晴らしいものへの驚きや、それへの敬い、あこがれ。心そのものは直接観ることは出来ませんが、私たちの行動、しぐさ、言葉遣いとなり、態度となって表れてきます。

たたえる心は押し付けるものではなく、私たちの行動によって子どもに「染まる」もの。子どもに真似されても恥ずかしくない態度、親切な行い、いつも心掛けていきたいですね。



園児とのふれあいを通して

幼稚園での生活の中で、園児とのふれあいの一こまをお伝えします。



「園長先生。これなんていう虫？」最近、よくこんな質問をしてくる子供たち。自然豊かな東俣の地で元気に育てている子どもたちらしく、土を触ったり、虫を見つけたりすることが大好きです。

「それじゃ、一緒に調べてみよう。」ということで、園長机のパソコン前で一緒に検索する子どもたち。「これは、色が違う。」「こっちは形が違う。」と言いながら、やっと見つけ出したのがよとうむし。夜盗虫(よとうむし)は、野菜や果物を食べる害虫の蛹でした。次の日、同じ蛹を見つけた子どもたちは「よとうむし、みつけた。」と豆科学者ぶりを発揮していました。



4月に初めて東俣幼稚園の仲間入りをした、KちゃんとSくん。最近幼稚園にも慣れ、園庭でもお部屋でも活発に活動しています。園庭大好きなSくんは、ニコニコしながら遊具に向かう姿が印象的です。人なつっこいKちゃんは、職員室にも物おじせず入ってきて、話しかけてくれます。2人にとって、幼稚園は安心して過ごせる場所になってきたようです。2人に優しく教えてくれるお兄さんお姉さんの姿をよく見かけます。